

第9回統計委員会委員と統計利用者との意見交換会について

平成27年 4月23日
統計委員会担当室

関心高まるビッグ・データの活用

世界最先端IT国家創造宣言

(平成26年6月閣議決定)

《ビッグデータの活用の推進》

いわゆる「ビッグデータ」を相互に結び付け、活用することにより、新ビジネスや官民協働の新サービスが創出され、企業活動、消費者行動や社会生活にもイノベーションが創出される社会を実現する。

国際機関の動向

国連統計委員会では、グローバルワーキンググループ創設に合意。(平成26年3月)

EUROSTATでは、ビッグ・データ活用に関するタスクフォースを設置、国家統計機関は、民間が保有するビッグ・データを認証するような役割が必要などと提言。(平成26年)

第Ⅱ期 基本計画 (平成26年3月閣議決定)

《統計作成の効率化及び報告者の負担軽減》

国際的な動向も踏まえつつ、統計データとビッグデータ(ICTの進展により生成・収集・蓄積等が可能・容易になる多種多量のデータ)を相互に結び付け、活用することについて研究を進める。

調査研究の実施

【公的統計におけるビッグ・データの活用に関する調査研究】(平成26年度、統計委員会担当室)

《目的》

公的統計の改善・整備に資するため、ビッグ・データについて、現状、利用における利点と課題を整理することなどを目的に実施。

特に、現時点で様々な取組が行われている交通部門について利用可能性を検討。

《有識者研究会》

座長	渡辺美智子	慶應義塾大学院教授
	大口 敬	東京大学生産技術研究所教授
	永瀆 利廣	第一生命経済研究所首席エコノミスト
	水野 貴之	国立情報学研究所准教授

《ビッグ・データ利用による経済動向把握のイメージ》

幹線道路における
トラックの通過台数動向

直接的
動向把握

トラック輸送量の
動向把握

間接的
動向把握

製造業の
生産動向把握

課題：荷物積載状況が不明、製造業の生産動向との関係が不明瞭

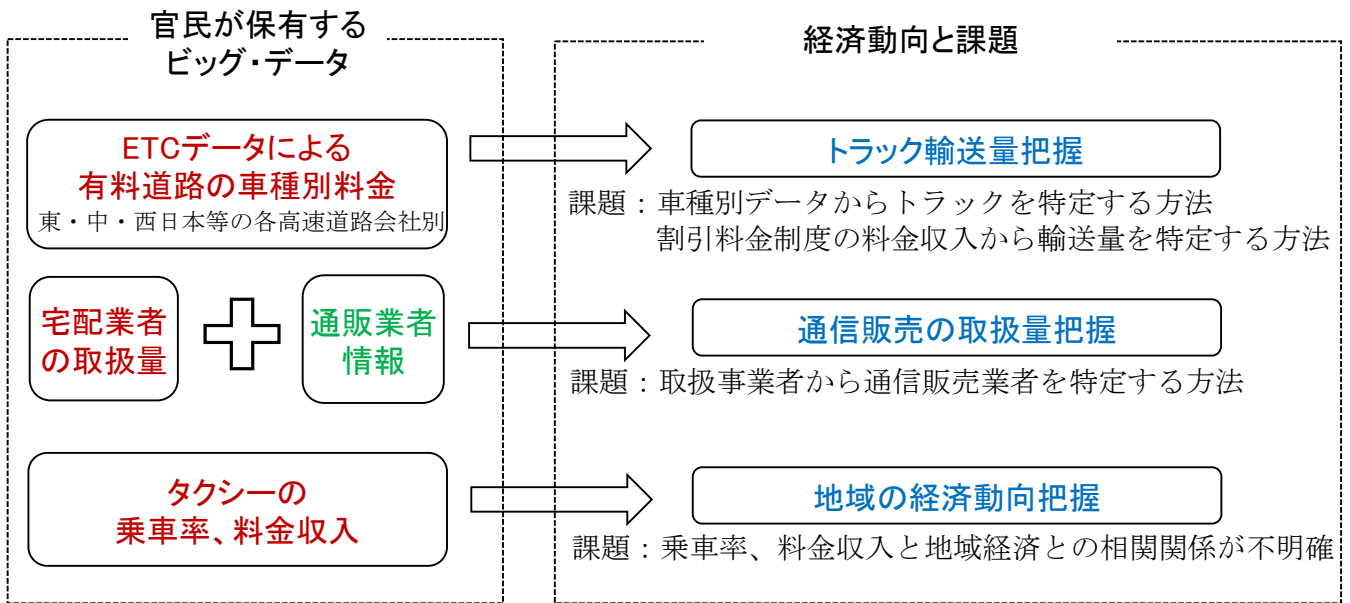
意見交換会の趣旨

ビッグ・データの利用に関して、官民共同で先駆的な取組が実施されている交通部門におけるビッグ・データの利用環境の現状と課題について研究者から講演を受け、調査研究の結果報告と併せてビッグ・データの利用に関して意見交換し、理解を深めるものとする。

《講師紹介》 大口 敬 東京大学生産技術研究所教授

「調査研究」の結果をベースにした現段階での整理

《経済動向の把握可能性と課題の事例》



ビッグ・データの利用方法としては、

- ①匿名化された個々の情報を利用するケースと統合された情報を利用するケースがある
- ②ビッグ・データだけで利用するケースと他の情報と組み合わせて利用するケースがある

《まとめ》

○ビッグ・データの中には、経済動向を把握できるデータがあり得る

- 統計作成のコスト削減、速報性の向上などが期待できる
- 複数企業、公的機関で分散保有しているデータの整合性などが必要

○ビッグ・データは玉石混淆であり、有効なデータを抽出する方法が必要

- 正確性、客観性、適時性、一貫性などの確保が必要

○自社戦略で保有するビッグ・データを公的機関に提供する環境整備が必要

- 法的規制、企業・個人情報保護、データ管理・提供に係るコスト負担等
- 新たな社会インフラになり得るとの価値観を官民で共有することが重要

《公的機関の役割》

EUROSTATの提言などから

- ビッグ・データについて社会的、経済的価値を高める方策作り
- 企業保有のビッグ・データに認証を付与
- 企業保有のビッグ・データを公的機関が安全に保管し、有効に活用する仕組み作り

⇒ ビッグ・データの利用可能性を含め情報提供していくことが重要